

令和7年度 京都大学における教職課程の実施に関する自己点検・評価報告

**自己評価欄：**  
**A：点検評価項目をすべて満たしている**  
**B：一部点検評価項目を満たしていない部分がある**  
**C：点検評価項目を全く満たしていない、もしくは重大な改善事項がある**

大項目	レベル	中項目	点検項目番号	点検項目	自己評価	評価理由	改善を要する点 (B,Cのみ)
教育理念・学修目標	大学全体	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	1	具体的かつ明確な形で設定されているか	A	教員の養成の目標として「京都大学がめざす教師像」を設定している。またその目標を確実に達成するため、教職課程ポートフォリオ（履修カルテを含む）を活用している。履修カルテ（目標達成の計画を示す部分を含む）については、本学ウェブサイトにて公表している。 https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/curriculum/teaching#teacher_view 目標に基づき、教職課程をより充実させるための計画として、アクションプランの策定も行っている。	
	大学全体	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	2	学生や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか 等	A	3人の実務経験豊富な教員を本学の特任教授として雇用することで密な連携を図っていることや、本学主催の教員研修ネットワーク「E.FORUM」で全国の教育委員会関係者等と交流し、積極的に情報交換ができる体制を整えている。京都市教育委員会等や教職課程を設けている京都地区の国公立大学（短期大学含む）が加盟する「京都地区大学教職課程協議会」に本学も加盟し、教職教育委員会委員が定期総会や小委員会に参加している。学生に対しては、教職課程アンケートを実施し、意見を聴取している。これらでの意見交換や得られた情報は、委員より教職教育委員会に報告し、本学の教職課程教育に反映している。	
	大学全体	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	3	一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果（以下「学修成果」という。）や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか 等	A	教育実践演習及び教育実習で確認した学生の目標到達度や京都地区大学教職課程協議会で得られた情報等を教職教育委員会で報告し、教職課程に見られる課題を検討し、必要な改善を図っている。	
授業科目・教育課程の編成実施	大学全体	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	4	ICT（情報通信技術）環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか 等	A	Zoom, Panda等のICT環境が整備されているほか、毎年教職課程用図書を購入している。また、教科書についても、令和3年度に中学校用65冊、令和4年度に高等学校用41冊、令和5年度に高等学校用64冊、令和6年度に小学校用64冊、令和7年度に中学校用42冊を図書室で購入しており、多くの学生に利用されている等、教職課程の授業科目の実施及び学生の学修に必要な施設・設備を整備している。	
	学科等	教育課程の体系性	5	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか 等	A	履修カルテや教職課程ポートフォリオで目標を達成するための計画とそれに対応した必要な授業科目を明示し、適切な役割分担を行っている。また、教職課程以外の科目については、教職課程オリエンテーション、及び教職課程ポートフォリオでの説明を通して、適切に関連性を確保している。	
	学科等	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	6	例えば、教員として身につけることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか、到達目標や学修量が適切な水準となっているか 等	A	教職実践演習・各教科の指導法・教育の方法及び技術のシラバスで適切な役割分担を確認しているほか、担当者間で密に連携をとっている。	
	学科等	いわゆるキャップ制の設定状況	7	1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか 等	A	学生の総学修時間の長時間化を防ぎ、各授業科目で求められている予習・復習時間を十分に確保する観点から、令和2年度から履修科目の年間登録上限（CAP制）を導入している。また、成績優秀者に対する例外を認める場合であっても、更なる登録上限を設けるなど、CAP制の趣旨に照らした適切な運用を行っている。	
	学科等	教育課程の充実・見直しの状況	8	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか 等	A	教育実践演習及び教育実習で確認された学生の目標到達度を教職教育委員会で報告し、教職課程における課題を検討し、必要な改善を図っている。	
	授業科目	個々の授業科目の到達目標の設定状況	9	法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか 等	A	履修カルテ（ルーブリック）や教職課程ポートフォリオは、法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムに対応したものとなっており、これらをもとに個々の授業科目の到達目標を設定している。毎年度、全ての教職科目に関してシラバスチェックを行っている。	
	授業科目	シラバスの作成状況	10	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか 等	A	教育の基礎的理解に関する科目等について、教職科目連絡小委員会委員で毎年度シラバスの確認を行い、適切に作成されていない場合は、担当教員に是正を求めている。	
	授業科目	アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	11	授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか 等	A	基幹科目においてグループワーク、事例研究及びフィールドワークを積極的に取り入れたり、高校生との交流会を取り入れたりと、課題探究力を目的とした多様な取組を行っている。	
	授業科目	個々の授業科目の見直しの状況	12	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか 等	A	教育の基礎的理解に関する科目等について、教職科目連絡小委員会委員で毎年度シラバスの確認を行い、適切に作成されていない場合は、担当教員へ指導を行っている。教職実践演習で、教職課程ポートフォリオを用いた振り返りを行うことが、教職課程全体の自己点検・評価の活動としても機能している。	
	授業科目	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	13	教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習（学校体験活動含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか 等	A	参加必須の教職実践オリエンテーションや教育実習オリエンテーション（全体事前指導）、教育実習の教科別事前指導、教育実習参加申込説明会について、教職教育委員会で主旨を共有し、意見交換を行っている。	
学修成果の把握・可視化	大学全体	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	14	成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか 等	A	シラバス作成要領を明確化し、成績評価の統一化を行っている。	
	学科等	成績評価に関する共通理解の構築	15	同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか 等	A	成績評価基準に関して教職実践演習では、ガイドラインを作成している他、担当教員間で密に連携をとっている。同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合には、シラバス作成の段階で打ち合わせを行っている。	
	学科等	教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	16	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか、教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか 等	A	教職課程を履修する学生に、教職課程ポートフォリオ（学生の成果資料を体系的に整理して記録するファイル）の作成と活用を求めている。 教師として求められる力量を5つの柱（A. 教職に求められる教養、B. 生徒理解と人間関係構築力、C. 教科内容に関する知識・技能、D. 教科等の授業づくりの力量、E. 課題探究力）で明確化するとともに、それを「履修カルテ」において具体化しており、学生はこれらの5つの柱を意識しながら、教職課程の学びのプロセスや成果物を教職課程ポートフォリオに蓄積していく。 そして、教職課程の総まとめとして、教職課程ポートフォリオに基づいた自己評価・相互評価と学生の自主的活動を軸に、教職実践演習を実施し、教員としての資質・能力の向上をはかっている。 また、必修科目において教職課程ポートフォリオ検討会を行い、優れたポートフォリオを動画共有し、学生に紹介している。	
	授業科目	成績評価の状況	17	各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか、公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか 等	A	達成水準・成績評価基準はシラバスに明記するとともに、初回授業にて詳細に説明することで、学生に明示している。教育の基礎的理解に関する科目等については、教職科目連絡小委員会委員で毎年度シラバスの確認を行い、基準が明記されていないものは、担当教員に是正を求めている。	

大項目	レベル	中項目	点検項目番号	点検項目	自己評価	評価理由	改善を要する点 (B,Cのみ)
教職員組織	大学全体	教員の配置の状況	18	教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を充足しているか 等	A	部局で常時確認、変更届提出時に本部でも確認し、充足している。	
	大学全体	教員の業績等	19	担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況 等	A	専任教員の業績については、京大HPにて公表している通り、高い専門性を有しており、多くの教員は実務経験も豊かである。非常勤講師の雇用にあたっては、研究・実践の両面における実績を審査している。	
	大学全体	職員の配置状況	20	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか 等	A	学務部教務企画課教育企画掛、教育学部教職教務掛を設置している。	
	大学全体	FD・SDの実施状況	21	いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施されているか、適切な内容が実施できているか、実際に参加が確保できているか等	A	令和3年度は、ICT活用に関するFD研究会を複数回実施した。また、令和7年度には、ランチョン教職FDセミナーを行った。SDについては、教職教育委員会には教職事務を担当している職員が陪席している他、年に1度事務担当者向けに学内で説明会を行っている。また、京都府の説明会にも各部局担当者が出席している。	
	授業科目	授業評価アンケートの実施状況	22	個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか 等	A	全ての科目について授業評価アンケートを実施しており、担当教員にフィードバックする等、教育改善に活用している。また、教職課程では独自に教職課程アンケートで学生の意見や要望を収集し、担当教員にフィードバックしている。	
情報公表	大学全体	学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	23	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行っているか 等	A	HPで公表している。 卒業者の教員免許状の取得および教員への就職の状況 <a href="https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/curriculum/teaching#jokyo">https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/curriculum/teaching#jokyo</a>	
	大学全体	学修成果に関する情報公表の状況	24	大学に必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか 等	A	京大HPにて、学生自身の達成度・満足度に関する自己認識についての記述を含む自己点検・評価報告書を公表している。	
	大学全体	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	25	根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか	A	令和8年度より京大HPにて公開予定である。	
教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	大学全体	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	26	教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか、教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか 等	A	参加必須の各種オリエンテーションで教職課程に関する情報を提供するとともに、必修科目において、現役講師をゲストスピーカーとして招き、教師として働く魅力を学生に発信している。	
	大学全体	学生に対する履修指導の実施状況	27	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか、「履修カルテ」を適切に活用できているか 等	A	教職課程オリエンテーションで履修カルテや教職課程ポートフォリオの作成について説明し、全体の見通しを提供するとともに、必修科目「教職教育論」などで教職課程ポートフォリオ検討会を実施することにより、ポートフォリオに基づく学びの振り返りを促している。教育実習に行く前には、その事前指導とセットで教職実践演習のオリエンテーションを行なっている。ここでは、履修カルテに記された評価基準を確認しつつ、京都大学が設定した教師の力量の5つの柱に照らして自己評価するように指導する。そうして課題意識を持って実習に臨み、4回生後期の教職実践演習では、ポートフォリオを一つのツールとしながら、学生たちが、教育実習も含めた、教職課程での学び全体の振り返りを行い、課題探究活動を通して力量を高めている。	
	大学全体	学生に対する進路指導の実施状況	28	学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか 等	A	各種オリエンテーション、教師力アップゼミナールでは教員採用試験を語る会やOB・OGとの交流会等を実施し、進路に関する情報を提供している。京都市の教員養成支援室と密に連携をとり、京都教師塾の紹介等の講演会への参加機会を提供するなど、様々なキャリア支援体制を構築している。	
関係機関等との連携	大学全体	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	29	教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか 等	A	京都市教育委員会と密に連携をとり、京都教師塾を学生に紹介している他、学校ボランティアの紹介等を随時行っている。	
	大学全体	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	30	教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか、学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか 等	A	教育実習受入校と密に連携をとっている他、学校ボランティアの紹介や京都教師塾の紹介を行っている。	
	大学全体	学外の多様な人材の活用状況	31	学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか 等	A	教師力アップゼミナール、教職実践演習、各種オリエンテーションに京都市教育委員会や実務経験豊富な特任教授が参加し、授業も担当している。必修科目において、実務経験のある現職教員をゲストスピーカーに招き取り組みも行っている。	